



# ニッスイグループにおけるSDGsの取り組み

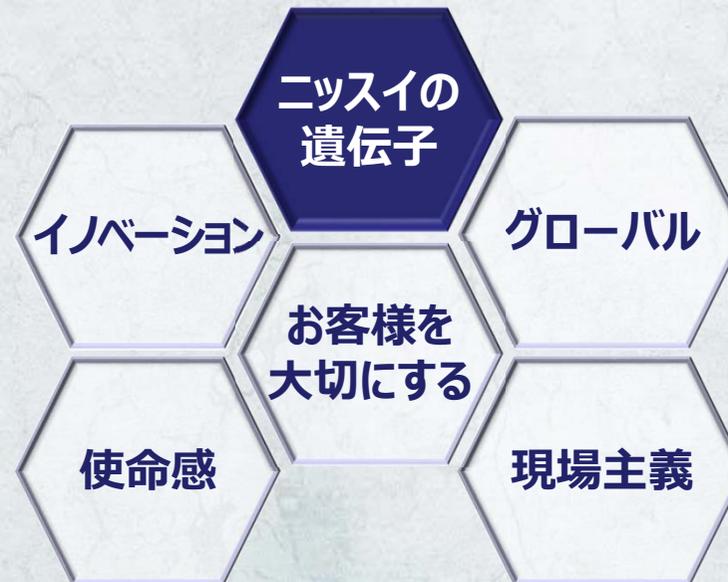
日本水産株式会社  
CSR部

## 創業の理念

水の水道におけるは、  
水産物の生産配給における理想である (1911年創業)



Founder: Ichirou Tamura



Honour: Kousuke Kunishi

## 経営の基本方針

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、  
水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、  
世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。





# ニッスイグループについて (海外事業)



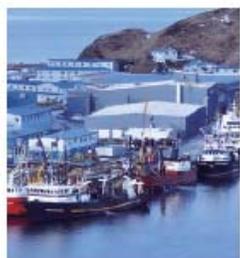
## 経営の基本方針

私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。



## Nissui's Business Model

● 白身魚 (ベーリング海スケソウダラ)



米国の漁業者が漁獲したスケソウダラをグループ企業のユニシー社が集荷

◀ ダッチハーバー港に停泊する米国の漁船



ユニシー社ダッチハーバー工場ですり身やフィレーに加工、日本および世界のグループ各社や市場に出荷

◀ ユニシー社ダッチハーバー工場



すり身は各国でカニ風味かまぼこや練り製品などに加工

◀ ニッスイ八王子総合工場

# ニッスイグループについて (国内事業)



### 養殖

テリでトラウトの養殖を行っています。日本では宮崎県でブリ、鳥取県でギンガケなど、鹿児島県・長崎県などで本マグロの養殖、養殖魚用配合飼料の生産・販売などを行っています。

サルモリス・アンタルティカ [S.A.]社(チリ)    黒瀬水産    弓ヶ浜水産    西海水産・金子産業

## 水産事業

### 加工・販売

北米ではスケソウダラなどの白身魚の加工や、これらを使用した水産冷凍食品などの製造・販売、ヨーロッパでは水産物の調達と販売を行っています。日本では鮮魚・冷凍魚の販売のほか、水産物を高度加工した食材を製造・販売しています。

スケソウダラを調理しやすいミンチ状に凍結加工した商品    ユニシー社 (アメリカ)    ノルディック・シーフード社 (デンマーク)

ニッスイ    UniSea    NORDIC SEAFOOD

### 漁業

南米やニュージーランドなどを拠点とする漁業により、水産資源にアクセスしています。日本では沖合底曳漁を行っています。

エムデベス社(チリ)    シーロード社 (ニュージーランド)    共和水産

EMDEPES    SEALORD    NISSAI

## ファインケミカル事業 (医薬・健康食品)



### 国内

[家庭用]    [業務用]

家庭用冷凍食品    フィッシュソーセージ・練り製品    常温食品

### 海外

食品事業

ゴートンズ社    キング・アンド・プリンス・シーフード社    シチ・マリン社

家庭用冷凍食品    業務用冷凍食品    チルド食品

GORTONS    KING PRINCE    Mrs. Friday    City Marina

中性脂肪を下げる イマワ EPA+DHA    中性脂肪を下げる イマワ EPA    中性脂肪を下げる イマワ EPA+DHA

# CSR方針の検討ステップ（経営へのCSRの導入）



STEP 1

国内外グループ会社を含めた実態調査

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| 1. コンプライアンス・ガバナンス   | 6問  |
| 2. 人権、労働条件・労働環境     | 10問 |
| 3. 環境               | 6問  |
| 4. お客様からの信頼、食の安全・安心 | 4問  |
| 5. 地域社会への貢献         | 3問  |

➤グループ各社取り組みアンケート結果（抜粋）

➤サプライヤー従業員の人権尊重を定期的にチェック	海外64%、国内11%
➤多様性の尊重のための目標設定と取り組みの実施	海外45%、国内 0%
➤海洋資源の持続可能性に向けた目標設定と取り組み	海外36%、国内11%
➤事業の特性を活かした地域社会への貢献活動	海外73%、国内33%

(国内 27社、海外 11社 計 38社)

2015年12月

2016年 1月

2016年 2月

2016年 3月

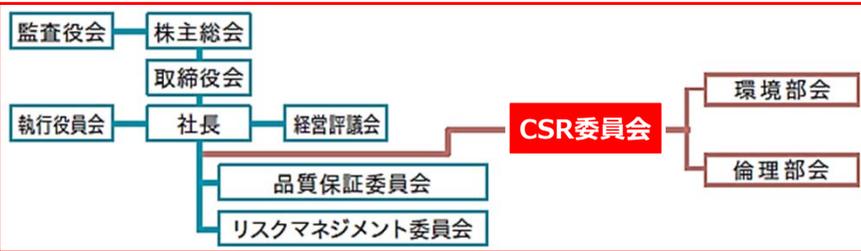
2016年 4月

STEP 3

方針案についての  
ステークホルダーダイアログ



CSR委員会の設置



CSR選任組織の設置

CSR行動宣言の発表

マテリアリティ（重要課題）  
検討開始

役員CSR勉強会 I

STEP 2

社員選抜メンバーによる  
ワークショップ

課長CSR勉強会  
& 意見交換会

STEP 4

CSR方針について  
執行役員会で審議

役員CSR勉強会 II

部長CSR勉強会

# CSR行動宣言（CSR方針）



私たちニッスイグループは、地球や海に感謝し、創業時より受け継ぐ5つの遺伝子（使命感、イノベーション、現場主義、グローバル、お客様を大切にする）から多様な価値を創造し、事業を通じて社会の課題解決に取り組みます

## お客様

- 私たちは、安全・安心で、お客様にとって価値ある品質の商品をお届けします
- 私たちは、海の恵みを活かし、イノベーションにより、食の美味しさや楽しさと健やかな生活をお届けします

## 従業員

- 私たちは、高い倫理観を持ち、社会規範に則って行動し、より信頼される企業を目指します
- 私たちは、多様な価値観や個性を尊重し、互いを磨き合う中でチームワークの発揮により成長し続けます

## ビジネス・パートナー

- 私たちは、ビジネス・パートナーとの公正で公平な関係を維持します
- 私たちは、ビジネス・パートナーと相互の信頼関係を築き、共に持続可能な社会を目指します

## 環境

- 私たちは、環境負荷の低減および自然環境と生物多様性の保全に努めます
- 私たちは、地球や海の恵みを受けて事業を営んでいることを心にとめ、資源の持続的な利用に努めます

## 株主

- 私たちは、株主への情報開示に努め、健全で透明な経営を行います
- 私たちは、安定的に成長し続けることで企業価値を高め株主への適正な還元を行います

## 社会

- 私たちは、ニッスイグループの知見や技術を通じ、地域社会の発展と次の世代の育成に努めます
- 私たちは、世界各地の文化や習慣を尊重し、事業の発展とともに地域社会に貢献します

# 取り組むべき社会課題（マテリアリティ）の検討ステップ



STEP  
1

## 取り組むべき 社会課題の抽出

ニッスイと関わりの深い29の課題

- ①品質 ②健康 ③商品・原材料表示
- ④消費者啓発、食育 ⑤お客様満足、苦情対応
- ⑥研究開発、イノベーション
- ⑦コンプライアンス、企業倫理 ⑧労働安全衛生
- ⑨グローバル経営人材育成・活用
- ⑩ダイバーシティ(女性・障がい者・外国人など)
- ⑪人材育成 ⑫労働条件 ⑬CSR調達
- ⑭汚職・腐敗防止 ⑮公正な競争
- ⑯知的財産権(特許・実用新案など)
- ⑰原材料・商品トレーサビリティ
- ⑱水産資源の持続可能性、生物多様性
- ⑲気候変動、温暖化 ⑳水資源
- ㉑廃棄物(フードロス)、資源効率
- ㉒環境ラベリング(MSC、ASC)、エコパッケージ
- ㉓海洋環境 ㉔ガバナンス、内部統制
- ㉕リスクマネジメント・BCP ㉖情報開示
- ㉗社会貢献活動 ㉘NGO/NPOとの協働・パートナーシップ
- ㉙地域経済への貢献(雇用・人材育成・調達など)

2016年5～6月

2016年7～8月

STEP  
2

## ステークホルダーに とっての重要度を調査

29の取り組むべき  
社会課題について  
株主、NPO/NGO、  
社員、取引先・サプライヤー、  
お客様(得意先、消費者)  
571名にアンケートを実施

ステークホルダーに  
とっての  
取り組むべき課題の  
重要度を算出

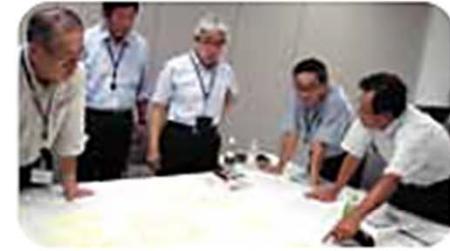
2016年8月

STEP  
3

## 事業における 重要度の検討

29の取り組むべき  
社会課題について、  
役員ワークショップにより  
事業での重要度を検討

各課題を  
プラス・マイナス  
影響度の大きさにより  
総合評価



STEP 1 取り組むべき社会課題の抽出



社会の多様なニーズ、要請に対応できるよう様々なソースから社会課題を抽出し、水産・食品業界との関連性を考慮して、275項目を選択した

当社事業領域や顧客層を考慮して29項目に絞った

業界との関連性の強い社会課題を抽出 275項目

社会の期待

- SDGs
- 国連グローバルコンパクト
- ISO26000
- OECD多国籍企業ガイドライン

78項目

顧客の重要課題

- イオン サプライヤーCoC
- グッドバンカーSRI調査票
- PwC 世界CEO意識調査
- 日経BP 企業の女性活用度調査
- ウォルマート 監査前質問票
- レスポンシブルソーシング
- 東洋経済 CSR調査票

104項目

他社の重要課題

- マルハニチロ、ニチレイ
- 味の素、キリン、ネスレ
- ユニリーバ、JBS

93項目



取り組むべき29の課題

番号	取り組み課題 (issue)
1	品質
2	健康
3	商品・原材料表示
4	消費者啓発、食育
5	お客様満足、苦情対応
6	研究開発、イノベーション
7	コンプライアンス、企業倫理
8	労働安全衛生
9	グローバル経営人材育成・活用
10	ダイバーシティ (女性・障がい者・外国人など)
11	人材育成
12	労働条件
13	CSR調達
14	汚職・腐敗防止
15	公正な競争
16	知的財産権 (特許・実用新案など)
17	原材料・商品トレーサビリティ
18	水産資源の持続可能性、生物多様性
19	気候変動、温暖化
20	水資源
21	廃棄物 (フードロス)、資源効率
22	環境ラベリング (MSC、ASC)、エコパッケージ
23	海洋環境
24	ガバナンス、内部統制
25	リスクマネジメント・BCP
26	情報開示
27	社会貢献活動
28	NGO/NPOとの協働・パートナーシップ
29	地域経済への貢献 (雇用・人材育成・調達など) 10

No	取り組み 範囲	取り組み課題 (issue)	詳細説明
1	商品に関わる 取り組み	品質	品質 品質にこだわり、安全・安心な商品を提供する
2		健康	健康 人々の健康と、栄養に役立つ価値ある商品をお届けする
3		商品原材料表示	商品・原材料表示 商品パッケージを見やすく、わかりやすい表示に努める
4		消費者啓発・食育	消費者啓発、食育 次世代に向けて食や環境、健康に関する教育活動を行う
5		お客様満足・苦情対応	お客様満足、苦情対応 お客様からいただいたご意見を活かした商品開発・サービスに努める
6		研究開発、イノベーション	研究開発、イノベーション 独創性を持つ研究や、新しい切り口の技術を活かし、生活の利便性に貢献する
7	働く人・ 職場での 取り組み	コンプライアンス	コンプライアンス、企業倫理 法令を遵守し、セクハラ・パワハラなどのない職場に努める
8		労働安全衛生	労働安全衛生 安全で快適な職場作りに努める
9		グローバル経営人材育成	グローバル経営人材育成・活用 世界的に経営を担える人材の育成と、そのような人材の活用に努める
10		ダイバーシティ	ダイバーシティ(女性・障がい者・外国人など)性別・身体的特徴・国籍などへの差別がなく、多様な価値感を尊重する
11	取引を行う うえでの 取り組み	人材育成	人材育成 個人の能力を互いに高め合い、キャリア形成に応えるように努める
12		労働条件	労働条件 児童労働や強制労働を行わない会社と仕事を進める
13		CSR調達	CSR調達 環境への配慮があり、人権を尊重している会社と取引を行うように努める
14		汚職・腐敗防止	汚職・腐敗防止 立場を利用した不正行為や、賄賂・横領などの不正が行われないように努める
15		公正な競争	公正な競争 市場における公正で自由な競争に努める
16		知的財産権	知的財産権(特許・実用新案など) 無形の権利を重視し、侵害しない・されないように努める
17	資源・環境 を守る 取り組み	トレーサビリティ	原材料・商品トレーサビリティ 由来及び流通経路が明らかな原材料を使用し、商品の流通経路を把握する
18		水産資源の持続可能性	水産資源の持続可能性、生物多様性 生物資源の減少を防ぎ、持続的に利用する
19		気候変動、温暖化	気候変動、温暖化 温室効果ガス(CO2)の削減に努める
20		水資源	水資源 水の大切さを認識し、有効に活用する
21		フードロス	廃棄物(フードロス)、資源効率 食品廃棄物の削減に取り組み、資源の有効利用に努める
22	経営管理 の取り組み	MSC,ASC他環境ラベル	環境ラベリング(MSC、ASC)、エコパッケージ 環境にやさしい商品や包装材の利用に努める
23		海洋環境	海洋環境 海洋ゴミや排水を減らし、海を汚さないように努める
24		ガバナンス	ガバナンス、内部統制 企業マネジメント体制の強化に努める
25	社会の 発展への 取り組み	リスクマネジメント、BCP	リスクマネジメント・BCP 事件・事故発生予防の計画、災害時の早期復旧に努める
26		情報開示	情報開示 経営情報を開示し、健全で透明な経営に努める
27	社会の 発展への 取り組み	社会貢献	社会貢献活動 社会貢献活動を通じて、地域社会や芸術・スポーツの発展に努める
28		NGO/NPO	NGO/NPOとの協働・パートナーシップ NGO/NPOと協働し、地域の社会課題解決へ向けて取り組む
29		地域経済への貢献	地域経済への貢献(雇用・人材育成・調達など) 事業を展開する地域の活性化や、その地域の方々の雇用に努める

# 取り組む社会課題（マテリアリティ）の検討ステップ



STEP  
1

取り組むべき  
社会課題の抽出

ニッスイと関わりの深い29の課題

- ①品質 ②健康 ③商品・原材料表示
- ④消費者啓発、食育 ⑤お客様満足、苦情対応
- ⑥研究開発、イノベーション
- ⑦コンプライアンス、企業倫理 ⑧労働安全衛生
- ⑨グローバル経営人材育成・活用
- ⑩ダイバーシティ(女性・障がい者・外国人など)
- ⑪人材育成 ⑫労働条件 ⑬CSR調達
- ⑭汚職・腐敗防止 ⑮公正な競争
- ⑯知的財産権(特許・実用新案など)
- ⑰原材料・商品トレーサビリティ
- ⑱水産資源の持続可能性、生物多様性
- ⑲気候変動、温暖化 ⑳水資源
- ㉑廃棄物(フードロス)、資源効率
- ㉒環境ラベリング(MSC、ASC)、エコパッケージ
- ㉓海洋環境 ㉔ガバナンス、内部統制
- ㉕リスクマネジメント・BCP ㉖情報開示
- ㉗社会貢献活動 ㉘NGO/NPOとの協働・パートナーシップ
- ㉙地域経済への貢献(雇用・人材育成・調達など)

2016年5～6月

2016年7～8月

STEP  
2

ステークホルダーに  
とっての重要度を調査

29の取り組むべき  
社会課題について  
株主、NPO/NGO、  
社員、取引先・サプライヤー、  
お客様(得意先、消費者)  
571名にアンケートを実施

ステークホルダーに  
とっての  
取り組むべき課題の  
重要度を算出

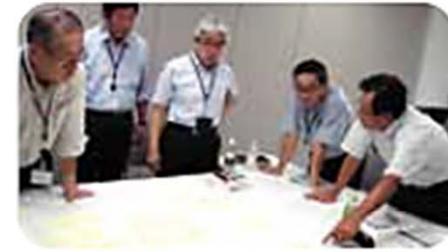
2016年8月

STEP  
3

事業における  
重要度の検討

29の取り組むべき  
社会課題について、  
役員ワークショップにより  
事業での重要度を検討

各課題を  
プラス・マイナス  
影響度の大きさにより  
総合評価



# 取り組むべき社会課題（マテリアリティ）の検討ステップ



2016年8月

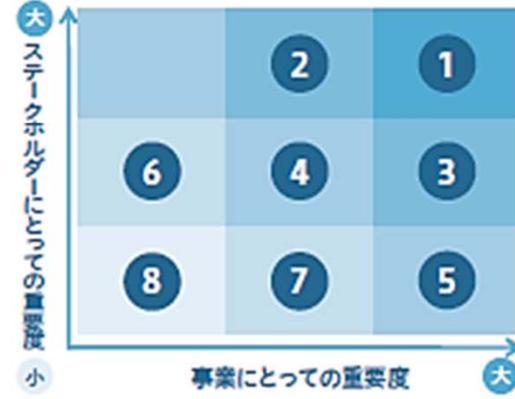
2016年9月

## STEP 4

### マテリアリティの検討

29の取り組むべき社会課題の重要度をマトリクス分析。

#### マテリアリティマトリクス



- ① 健康/水産資源の持続可能性/研究開発、イノベーション/品質/CSR調達
- ② フードロス/トレーサビリティ
- ③ 人材育成/ダイバーシティ/海洋環境/リスクマネジメント、BCP/グローバル経営人材育成
- ④ ガバナンス/消費者啓発・食育/地域経済への貢献/社会貢献/コンプライアンス/お客様満足・苦情対応/MSC、ASC他環境ラベル/気候変動、温暖化
- ⑤ 知的財産権
- ⑥ 情報開示
- ⑦ 労働安全衛生/NGO、NPO/労働条件
- ⑧ 公正な競争/水資源/汚職・腐敗防止/商品原材料表示

## STEP 5

### 外部との意見交換

マテリアリティマトリクスを示し、有識者とのダイアログを実施。



#### いただいたご意見

- 国際的に水産企業は、①生態系保全 ②漁師や工場従業員の生活 ③人間らしい働き方(労働条件等)④ガバナンスの視点を必要とする
- 食育やフードロスでは、消費行動の影響を踏まえた提案など、企業と消費者が共に解決に取り組む姿勢が必要
- 飢餓や食糧の略奪には、安全保障の側面もあり、グローバル視点が必要
- SDGsとの関わりを明示するなどの対応が必要

大 ステークホルダーにとっての重要度		フードロス トレーサビリティ	健康 水産資源の持続可能性 研究開発、イノベーション 品質 CSR調達
情報開示		ガバナンス 消費者啓発・食育 地域経済への貢献 社会貢献 コンプライアンス お客様満足・苦情対応 MSC,ASC他環境ラベル 気候変動、温暖化	人材育成 ダイバーシティ 海洋環境 リスクマネジメント、BCP グローバル経営人材育成
公正な競争 水資源 汚職・腐敗防止 商品原材料表示		労働安全衛生 NGO/NPO 労働条件	知的財産権
小		事業にとっての重要度	大

### 豊かな海を守り、持続可能な水産資源の利用と調達を推進する

水産資源の利用と調達では、資源の維持と労働における人権課題の解決が求められています。ニッスイグループは、海の恵みに感謝し、これからも漁業・養殖他において資源を持続的に利用する技術開発に取り組み、環境や資源を次の世代につなぎます。また、サプライヤーとの協働により人権を尊重した持続可能な調達を推進します。

※ 対応する社会課題： 海洋環境、水産資源の持続可能性、CSR調達

### 安全・安心で健康的な生活に貢献する

グローバル社会には、紛争や貧困により飢餓に苦しむ人々がいる反面、先進国では高齢化や過剰栄養、フードロスが課題となっています。水産物は貴重な食糧資源であるとともに、健康的な食として世界中に受け入れられ、魚に含まれる機能性成分にも注目が集まっています。ニッスイグループは100年以上に亘り、海の恵みを活かす技術とイノベーションを培ってきました。限りある資源を無駄なく有効活用するとともに、食の美味しさや楽しさと健やかな生活に貢献します。

※ 対応する社会課題： 健康、R&D・イノベーション、品質、フードロス

### 社会課題に取り組む多様な人材が活躍できる企業を目指す

ニッスイグループは働く人の多様性を積極的に取り入れることが組織の活性を促し、事業の発展にも繋がると考えています。事業活動を通じ、グローバルやローカルでの社会課題に積極的に取り組む人材の育成を進めます。さらに、その取り組みを通して多様な人材が互いに磨き合い活躍できる企業を目指します。

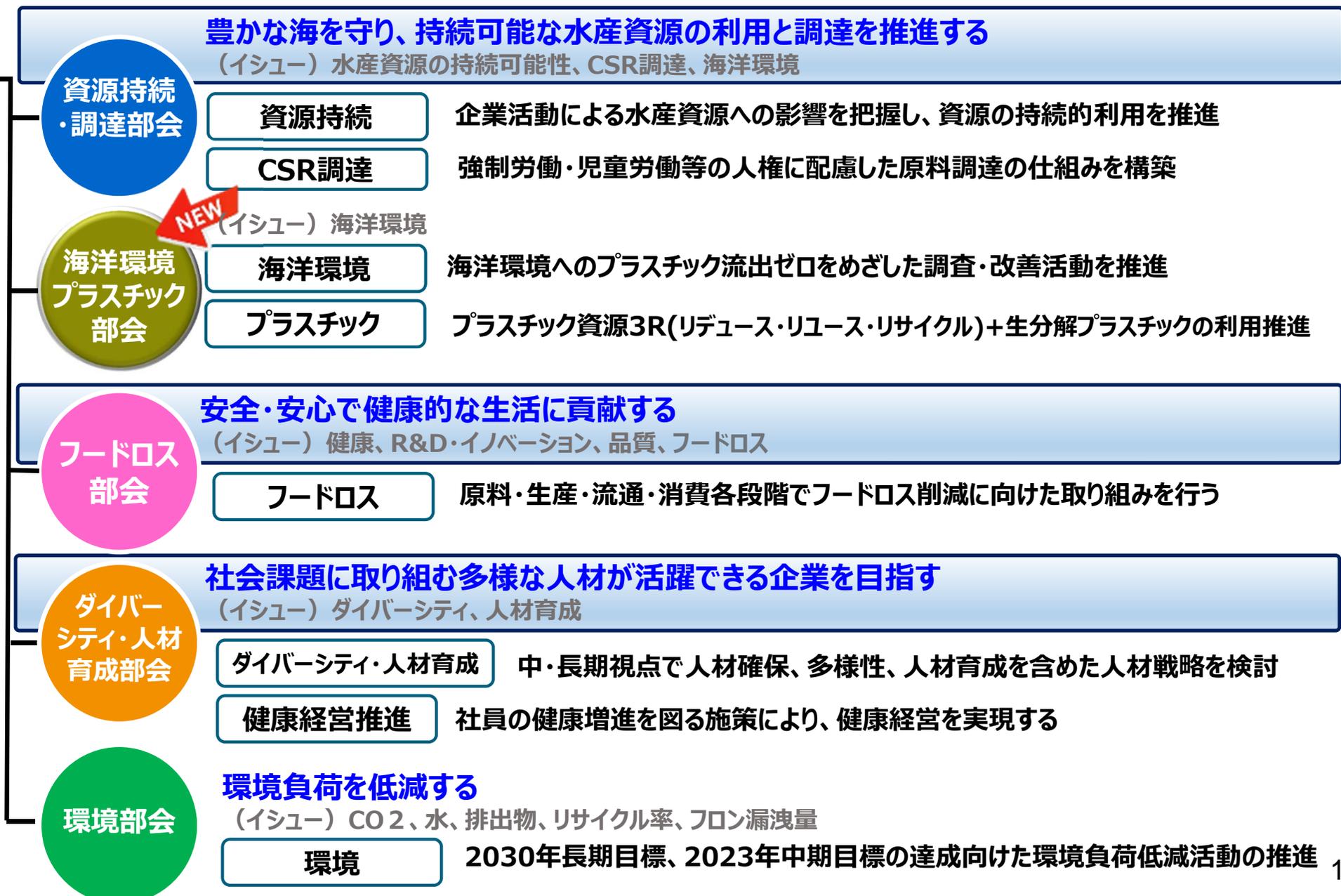
※ 対応する社会課題： ダイバーシティ、人材育成

## CSR推進組織体制

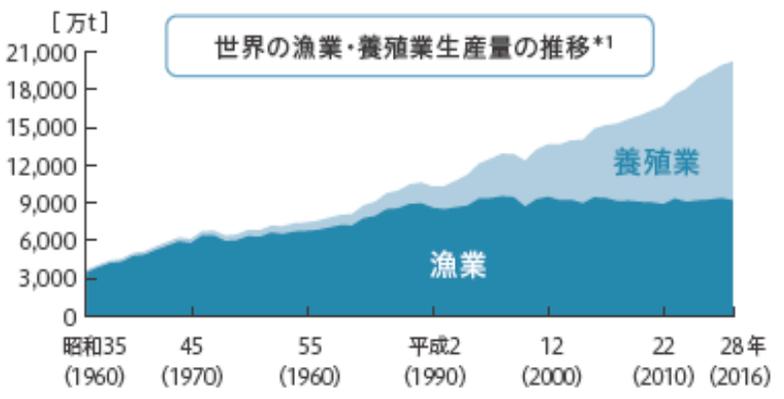
マテリアリティ別に部会、テーマ毎にWG設置し役員がリーダーを務めている

### CSR委員会

・開催は、四半期毎  
委員長を社長とし  
執行役員全員が  
委員を務める



# マテリアリティ別の部会活動 水産資源の持続性



生物学的に持続可能なレベルで漁獲されている資源割合

**67%** (2015年)\*2

\*1 出典: FAO「Fishstat (Capture Production, Aquaculture Production)」(日本以外の国)及び、農林水産省「漁業・養殖生産統計」(日本)に基づき水産庁が作成したものを加工  
\*2 出典: FAO「The State of World Fisheries and Aquaculture 2018」

## 世界の漁業・養殖業生産量

世界の漁業・養殖業生産量は年々増加し、なかでも養殖業生産量の伸びが顕著です。一方、漁業生産量は横ばい傾向が続いており、生物学的に持続可能なレベルで漁獲されている資源割合も67%に留まるなど今後減少が懸念されます。

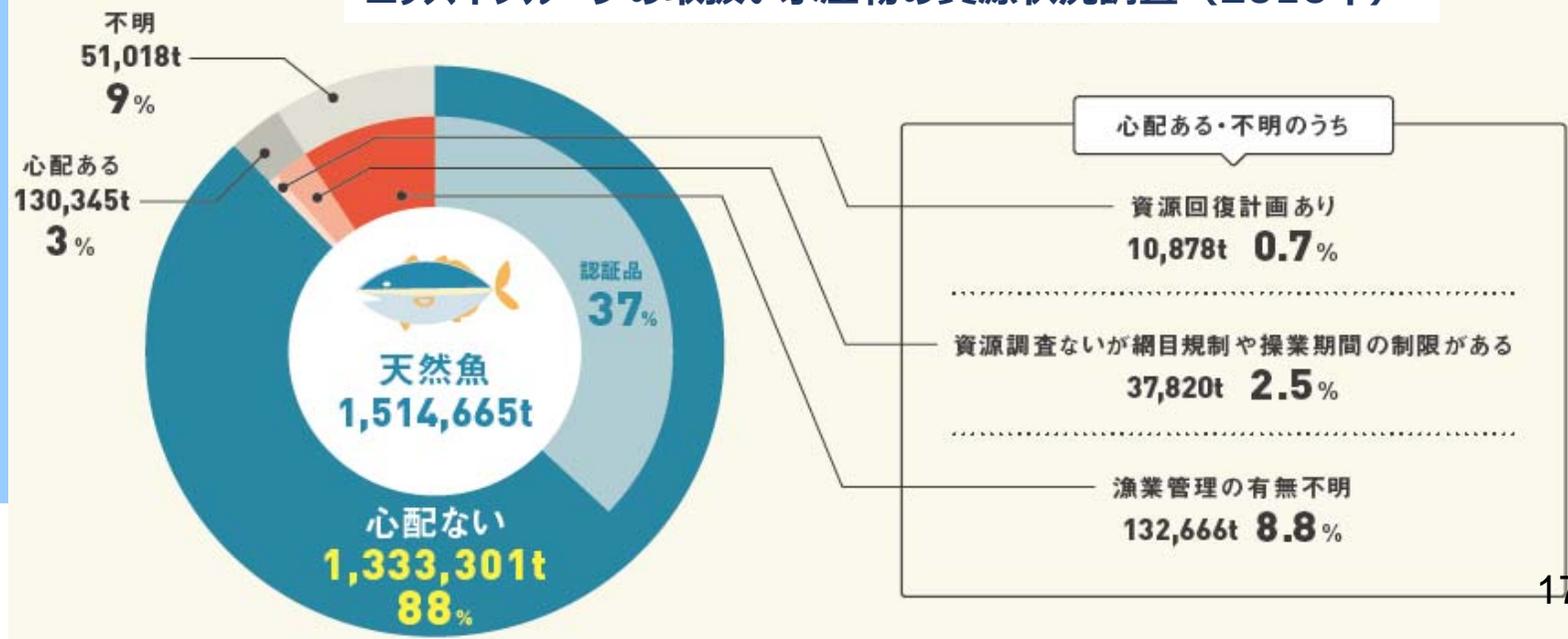
## 2030年までにめざす姿

自ら調達し利用する水産物については、個々の課題への対応を続けることで、「2030年までに調達する水産物について、持続性が確認されている」状態をめざします。

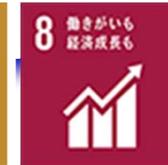
ニッセイグループが取り扱う水産物の「2016年の調達水産物の調査結果 (2017年実施)」から、調達した天然魚資源の88%は、MSCなどの水産エコラベル認証品や生物学的に持続可能なレベルにある資源の範囲にあり、「心配ない」と分類しました。

2018年は、残る「心配ある」「不明」の資源について、絶滅危惧種か、管理された漁業か、資源回復計画があるかの確認を加えるなど、調査を継続しています。

## ニッセイグループの取扱い水産物の資源状況調査 (2016年)



# マテリアリティ別の部会活動 CSR調達



## 2030年までにめざす姿

サプライヤーと協働により、“環境”と“人権”の両面で、持続可能性が確認されていることを目指します。

### 3つのチェック体制

	対象サプライヤー	内容
ニッスイCSR購買 取り組み セルフチェックシート	取引金額が多い、依存度が高い、環境・人権リスクが高いなど、ニッスイグループにとって関係性の高いサプライヤー。 毎年数十社を選定して説明会を開催後にチェックシートの回答をお願いします。	「遵法・調達倫理」「環境配慮」「人権配慮」「品質・安全の確保」「情報セキュリティ」「社会貢献」の項目からなり、全135問。 特に環境と人権に重きを置いた質問内容。
簡易チェックシート	既に取り入れているサプライヤー。	特に重要視する「人権」のみ9つの確認事項。 ニッスイ社員による現地・現物確認。
新規サプライヤー向け CSR購買 チェックシート	新しく取引を開始するサプライヤー。	CSRの基本的な内容で17項目。ニッスイのCSR調達の考え方と目指すべき姿に同意し、協働いただける意思確認。

### フィードバックシート事例

株式会社〇〇△ 御中

2018年10月30日  
日本水産株式会社  
CSR部

2018年度 CSR調達サブライヤーセルフチェック フィードバックのご案内

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
先日は弊社グループCSR調達説明会にご参加いただきありがとうございました。  
また、CSR調達セルフチェックシートへご回答頂きまして、心より感謝申し上げます。  
2018年度は弊社にとって重要なサプライヤーとなる国内外32社にご協力をいただき、各社CSR調達の現状を確認させていただきました。  
以下、各社チェックシートのご回答内容を項目別に、国内各社の平均得点率と御社の得点率をレーダーチャートで表し、コメントを記載いたしました。  
今後も、ニッスイグループのCSR調達実現の為に協力をお願いいたします。また御社の取り組みにも一緒に協働させて頂きたく、引き続きよろしくお願い申し上げます。

項目別得点率

CSR調達で重要な「人権配慮」に関する法規制や社会規範はある程度認識されているようなので、今後は更に情報収集を進め、仕組み作りや社員教育の向上を期待します。  
CSR調達で重要な「環境配慮」に関する法規制や社会規範はある程度認識されているようなので、今後は、特に持続可能性に配慮した調達を進めていただくことを期待します。



CSR調達説明会実施の様子



## 2019年度から活動開始

現在は、ニッセイグループ内の現状把握に取り組んでおり、ポリシー、めざすべき姿の検討を始めている

### [推進体制]

CSR委員会

海洋環境・プラスチック部会

#### 海洋環境ワーキンググループ

海洋環境におけるプラスチックの  
ゼロエミッションを推進。

- 漁業、養殖事業での使用プラスチックの管理実態把握と改善、コミットメント
- マイクロプラスチックの流出実態調査と抑制活動の推進
- 陸域での清掃および海洋漂着物などの回収活動の推進

#### プラスチックワーキンググループ

プラスチック資源の3R+Rを推進。

- 工場、家庭(使い捨て容器包装)、物流の各段階でのプラスチックの削減とリサイクル推進
  - プラスチックポリシーの検討
  - 外部団体(CLOMA\*)への参画、協働、情報収集
- \*CLOMA: Japan Clean Ocean Material Alliance 海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、経済産業省主導で設立された官民連携団体

# マテリアリティ別のその他活動 社員と共に取り組む活動



	  <b>活動名称</b>	<b>テーマ</b>	<b>実施場所</b>	<b>実施日</b>	<b>対象者</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>荒川環境学習</b>	<b>河川生態系保全 マイクロ・プラスチック</b>	  <b>東京 荒川</b>	 <b>4/22・23 5/20</b>	<b>新入社員研修 CSR推進委員</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>ニッセイグループ グリーンアップ作戦</b>	<b>海洋環境保全 海ごみゼロウィーク</b>	  <b>全国</b>	 <b>5～6月</b>	<b>ニッセイグループ 従業員</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>藤前干潟 生き物と触れあう活動</b>	<b>海洋環境保全 生物多様性保全</b>	  <b>名古屋</b>	<b>6/2</b>	<b>従業員と家族 日本クッカーリー小牧 十味惣</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>宇津貫緑地 里山保全活動</b>	<b>里山保全</b>	    <b>八王子</b>	<b>6/15</b>	<b>従業員と家族</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>知行浜 海を作る活動</b>	<b>海洋環境保全 生態系保全</b>	  <b>福岡</b>	<b>9/8</b>	<b>従業員と家族 博多まるきた水産 金子産業</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>おさかなを育む 湧水と海を守る森 保全活動</b>	<b>森林および 海洋環境保全</b>	  <b>鳥取</b>	  <b>9/27・28</b>	<b>従業員 弓ヶ浜水産 共和水産 鳥取県</b>
 <b>海を守る</b>	 <b>須磨水族園 生き物と触れあう</b>	<b>海洋環境保全 生態系保全</b>	  <b>兵庫</b>	<b>2019 年度内</b>	<b>従業員と家族</b>

# マテリアリティ別のその他活動 社員と共に取り組む活動



## 「森・川・海」保全活動の全体イメージ図

森と川と海はつながっている。  
森は川をはぐくみ、豊かな川は海をはぐくむ。

## 社員とともに「森・川・海」を守る

マテリアリティの実現に向け、常に事業との関連性を考えつつ、身近なところで社員と共に活動できる内容を検討しています。

一人一人が気づき、意識することから活動は始まります。少しでも多くの社員が参加し、感じながら考える、そんな体感できる活動づくりをこころがけます。

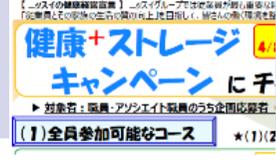
ニッセイグループの事業の根幹をなす海は、森から川、川から海までのつながりの中で、はぐくまれています。

このつながりを守る活動が「森・川・海」の**保全活動**です



# CSR推進テーマに連動させた体感イベントを実施



活動名称	テーマ	実施場所	実施日	対象者
 ウオーク・ザ・ワールド 	食を考える (飢餓)	横浜 大阪	5/12 5/26	従業員と家族
 缶切り部  	家庭の 食品ロスを考える	東京 八戸	10/12 2/29	消費者 従業員
 宴会料理 食べきり企画 	食品ロスを考える	全国	2019 未定	従業員
 EPA/AA比 健康番付 	健康経営	全国	番付 未	従業員
 健康+ストレージ キャンペーン 	健康経営 生活習慣改善	全国	4~7月	従業員
 子ども参観日 社内見学と科学実験 	職場を体験 海洋環境保全	本社	7/26	従業員 親子
 出張授業 	キャリア教育 働くとは？を伝える	都内 小中学校	7/13 8/29 10/10 11/19	小中学生

# ニッスイグループ事業と関わるSDGsゴール・ターゲット



事業と関わるSDGsゴール		14	13	6	11	15	12	3	2	5	8	17
マテリアリティ	取り組みテーマ											
豊かな海を守り、持続可能な水産資源の利用と調達を推進する	海洋環境	14.1	13.1	6.6		15.1						17.17
	海洋プラスチック	14.1		6.3	11.6		12.5					17.17
	水産資源の持続可能性	14.2 14.4		6.3							8.9	17.16 17.17
	生物多様性の保全	14.1	13.1									17.17
	CSR調達						12.2				8.7	
	環境マネジメント		13.2 13.3	6.3	11.6		12.5					
	環境負荷低減		13.2	6.3	11.6		12.5					
安全・安心で健康的な生活に貢献する	R&D							3.4 3.d	2.2			
	フードロス						12.3 12.8					17.17
社会課題に取り組む多様な人材が活躍できる企業を目指す	ダイバーシティ									5.1	8.2	
	働き方改革									5.b	8.2	
	女性活躍									5.1 5.5	8.2	
	シニア・障がい者・外国籍										8.8	
	人材育成・労働安全衛生										8.5	
	健康経営											
	ガバナンス									5.1		
社会貢献活動		14.a							2.1			17.17



～ 知ろう 今、変えよう 未来 ～

# Sustainable World

